

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

聖火を新国立競技場へ-13



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」バーチャルウォーク コーナーに八柳修之さんのバーチャルウォーク（国内版） 歩いて健康バーチャルウォークのすすめ「沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は8~10km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。バーチャルウォークはリハビリの散歩の距離を累計しバーチャルコースのゴールに向かう、すぐろくのようなもので「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ、前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れた通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年（平成30年）10月1日沖縄県辺戸岬をスタートした聖火は鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県、広島県、岡山県、兵庫県、大阪府、京都府を経て滋賀県に入っています。

2019年8月19日現在、スタートから1200km地点に到着しました。今後は現在の滋賀県甲賀市、三重県亀山市・鈴鹿市、四日市市から海路で桑名市に渡り、愛知県名古屋市熱田区・緑区の東海道五十三次の宿場を歩きます。5月18日バーチャル&リアル東海道五十三次で日本橋を出立した八柳修之さんとは名古屋までの間で擦れ違ふことが予想されます。

[土山宿（滋賀県甲賀市）～名古屋（愛知県名古屋市）]

1201 K m～1300 K m



写真上左は東海道五十三次の広重の浮世絵 土山宿、写真上右は金のしゃちほこで有名な名古屋城です。

寅次郎は 2005 年 5 月「第 13 回びわ湖長浜ツーデーマーチ」で滋賀県

長浜を訪問しています。2006 年 N H K 大河ドラマ主人公「山内一豊と妻千代」の物語の舞台の地が大会会場です。寅次郎の妻が眼の手術で入院の際に、銚子の母が見舞いに来て東京のデパートで滋賀県物産展の抽選で琵琶湖畔長浜の高級旅館ペア宿泊券を当て、



それをいただきました。旅館は大会会場の目の前で大会日程に合わせて妻と出かけ、長浜市内ウォークに参加しました。前日の城下町彦根歩きや琵琶湖畔の一豊と千代が過ごした長浜城（写真上）下のウォークを楽しみました。ウォーキングが趣味でない妻とウォーキング大会を歩くのはこの時が初めて最後でした。長浜ラーメンをいただき、露天風呂から琵琶湖の夕日を楽しみました。

三重県、愛知県へは 2005 年 1 月「第 1 回熱田・伊勢 125 キロ初詣ウォーク」に参加、初めてのお伊勢参りと初めての 4 日間の長距離ウォーク（スタートは愛知県熱田神宮、ゴールは三重県伊勢神宮）です。第一日目は熱田神宮本宮で行路の安全祈願を行い、全国からのウォーカー 350 名が 10 班編成で歩きました。寅次郎の 2 班は 38 名(男 19 名・女 19 名)です。江戸時代の東海道は宮宿～桑名宿までは海上七里の渡し舟ですが、江戸中期から干拓され、明治初めに公道に指定された「明治東海道」を歩きました。木曾川に架かる尾張大橋を渡ると三重県長島町、長良川・揖斐川に架かる伊勢大橋を渡ると桑名・七里の渡しの船着場でゴールです。夕食は桑名名物の蛤尽くしを奮発しました。

第二日目は往時の街並みの面影が残る東海道を歩き、日永の追分（四日市市）は江戸時代京都へ向かう東海道と伊勢神宮へ向かう伊勢街道の分岐点。伊勢街道の鈴鹿市白子がゴールです。

第三日目は津市を抜けて松阪に入ります。松阪は商人の町で三井家発祥の地、小津安二郎青春の町、国学者 本居宣長の故郷です。

松坂牛の牛丼で栄養補給しました。

第四日目は明和町斎宮寮[伊勢大社に仕えた斎宮（いつきのみこ）の宮殿]を経て「日本の心の故郷 一生に一度は訪れてみたい場所」と称される伊勢神宮へ到着。外宮手前から晴が雪に変わり雪中の参拝、内宮では日が差しましたが内宮本宮では又、雪中の参拝と幻想的なお伊勢参りとなりました。



2003年1月「第1回青春の秀吉 名古屋ツーデーマーチ」に参加、名古屋を歩きました。愛知県は信長、秀吉、家康の三英傑の生まれ故郷です。県内のあちこちに青春の血を燃やした史跡が点在しています。秀吉の生誕地 名古屋中村区にある豊国神社を起点に西に東に歩きました。

第一日目、仕事を終え夜行バスで早朝到着。津島上街道コースで信長が氏神とした津島神社には秀吉寄進の楼門、秀頼寄進の南門、

家康寄進の本殿がありました。蜂須賀小六や福島正則の史跡もまわり、全国で唯一の漬物神社の萱津（かやづ）神社（写真右）へ到着。漬物の女神にもお会いしました。神社のご好意の「とうがん汁サービス」は最高でした。



第二日目、午後は雨の予報で20kmコースに変更、家康ゆかりの大須賀神社で納屋橋饅頭をいただきながら愛知県や徳島県のウォーキング協会の方と知り合い、徳島県の方とはその後再会、徳島大会ではお世話になりました。観音様のご利益です。名古屋官庁街や陶器発祥の地（ノリタケ）やトヨタ発祥の地（旧豊田紡織本社工場）を訪ね、雨には降られずにゴール。「秀吉・清正に会っていきやあせ」の言葉で「名古屋市秀吉清正記念館」を訪ねました。土地や人との「発見・出会い・ふれあい」の楽しいウォークでした。

映画の寅さんは

滋賀県には1995年12月公開の第47作「男はつらいよ 拝啓車寅次郎様」で長浜を訪れています。琵琶湖畔で足を怪我した美人カメラマン宮典子（かたせ梨乃）を助けます。甥の満男も長浜の先輩の家に来て妹に一目ぼれをしますが、結果は失恋。「失恋は男の勲章よ」と満男を励ます寅さんです。



映画の中で時刻によって表情を変える琵琶湖の美しさが印象的でした。柴又にお礼に来た典子に会えなかった寅さん、満男の運転で典子の住む鎌倉まで行きますが、家の前で典子が家族と車に乗る姿を見守る失意の寂しげな寅さんです。寅さん、帰りは江ノ電「鎌倉高校前」駅から藤沢駅を経由して旅に出ています。

三重県には1970年1月公開の第3作「男はつらいよ フーテンの寅」で四日市市の湯の山温泉に来ています。泊まった温泉宿のおかみさん お志津さん（新珠八千代）に一目ぼれ、居ついて番頭役を務めます。骨休めに宿に来た柴又のおいちゃん夫妻と鉢合わせの騒ぎ。おかみさんの弟の恋の面倒を見て、おかみさんに感謝され益々その気になりますが、おかみさんは恋人と結婚して宿をたたむ決心を寅さんに言い出せません。宿の仲間にそのことを聞かされ、ガラス越し（おかみさんは不在）に別れを告げます。湯の山温泉には寅次郎の次女が四日市に嫁ぐ前日に一家で宿泊しました。映画「男はつらいよ」のロケに使われた場所を見て廻ったというご縁があります。



愛知県には1970年2月公開の第4作「新 男はつらいよ」で名古屋市に現れています。

名古屋の競馬場に現れ、自分の名前「車寅次郎」と同姓同名の不人気馬「ワゴンタイガー」にかけ18万円の大金、その後のレースも大金続きで100万円を獲得します。名古屋から柴又までタクシーで凱旋、おいちゃん・おばちゃんをハワイへ招待しようとする企画、盛大な見送りを受け羽田に向かいます。

ところが旅行社社長に金を持ち逃げされ飛行機には乗れず、羽田からこっそり柴又へ戻ります。家にこもりますが泥棒が入っても警察に連絡出来ません。泥棒に足元を見られお金を渡し、帰ってもらう始末です。



又旅に出て戻った寅次郎の部屋は、御前様に頼まれて幼稚園の美人先生 春子（栗原小巻）に貸しており、返ってきた寅さん、俺の居場所がなくなったとひがみ、旅に出ようとしたところに帰って来た春子に出会い、一目ぼれの寅さんです。しばらくは楽しいひと時を過ごしますが春子には恋人がいるとのことで又、失恋です。

「恩返しが出来ず、また笑いものになった」と旅に出る寂しそうな寅さんの後姿は印象的です。でも映画の最後のシーンは東北に向かう汽車の中で泥棒騒ぎの話で大爆笑のいつもの寅さんの姿でした。

スタートから 1300km 地点に到着したら、次のコースを紹介します。
途中経過は「寅さん歩」の中でお知らせします。

今回は 官公庁の食堂めぐり-24 板橋区役所 です。

平野 寅次郎 拝